

# 合浦

前

ワキ 合浦の里人

シテ 童子

後

シテ 鮫人

地は 唐土

季は 夏

ワキ詞

「是は唐合浦と申す所に住居する者にて候。今日は日もうらゝに候ふ程に。浦に出で釣するを詠めばやと存じ候。

シテ一声

「わたづみの。そこともいさや白波の。龍の都を出づるなり。

詞

「いかに此屋の内に主やまします。一夜の宿をかし給へ。

ワキ詞

「日もはや暮れてとざしつるに。宿とは誰にてまし

ますぞ。

シテ

「よし誰なりとも其情に。一村雨の雨宿り。一夜の宿をかし給へ。

ワキ

「たゝく水鶏の外面に立つや久方の。埴生の小屋に小雨ふる。

シテ

「床さえぬれば。

ワキ

「我妹子が。

地

「ひぢ笠の。雨は降り来ぬ雨宿り。雨は降り来ぬ雨

宿りの。頼む木陰かや。一樹の陰のやどりも。此  
世ならぬ契なり。一河の流れを汲みて知る。合浦  
の浦の江のほとり。鱗もなどや命恩の。其情をば  
知らざらん。く。

ワキ詞

「何と見申せども更に人間とは見え給はず候。名を  
御なのり候へ。」

シテ

「今は何をかつゝむべき。我は鮫人といへる魚の精な  
り。命をつがれまるらせし。報謝の為に來りた

り。我泣く涙の露の玉。絶えぬ宝となるべきなり。

地

「鮫人涙に。玉をなして命恩を。宝珠をなほも捧げ  
て。合浦にも入らせ給へと。前なる渚の波の上に。  
入るよと見えつるが。白魚となつて其まゝに。ひ  
れふして失せにけり。あとひれふして失せにけり。

（中入）

後ジテ

「龍女は如意の宝珠を釈尊に捧げ。変成就の法をな  
し。」

地

「奈落や奈落の底の白魚なれども。など命恩を報ぜざらんと。波立ちさわぎ汐うづまいて。うたかたの上にぞ顕はれたる。

シテ

「是こそ真如の玉の緒の。

地

「是こそ真如の玉の緒の。寿命長遠息災延命の宝の玉は。当来までの。二世の願ひも成就なるべし。是までなりや。織りつる綾の浦は合浦。玉はふたゝび帰る波の。千秋万歳の宝の玉は。く。合浦の

浦にぞをさまりける。